

(国)296号国道道路改築事業 埋蔵文化財調査報告書

—— 佐倉市井野一里塚南遺跡 ——

平成14年3月

千葉県土木部
財団法人 千葉県文化財センター

(国)296号国道道路改築事業 埋蔵文化財調査報告書

—— さくらしいのいちりづかみ
佐倉市井野一里塚南遺跡 ——



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告書第424集として、千葉県土木部の（国）296号国道道路改築事業に伴って実施した佐倉市井野一里塚南遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、陥穴が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また郷土の歴史を理解するための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理までご苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成14年3月25日

財団法人千葉県文化財センター

理事長 清水 新次

凡 例

- 1 本書は、千葉県土木部による（国）296号国道道路改築事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県佐倉市井野字一里塚1178番4ほかに所在する井野一里塚南遺跡（遺跡コード212-043）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査と整理作業の実施期間及び担当者は本文中に記述した。
- 5 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県土木部道路建設課、千葉県印旛土木事務所、佐倉市教育委員会、財団法人印旛郡市文化財センターの御指導、御協力を得た。
- 6 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「佐倉」(N1-54-19-14-2)
第2図 佐倉市発行 1/2,500 都市計画図
- 7 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和48年及び平成13年撮影1/11,200・1/10,000のものを使用した。

本文目次

I はじめに	1
1 調査の経緯	1
2 遺跡の位置と環境	1
II 調査の概要	5
1 調査区及び発掘区の設定	5
2 井野一里塚南遺跡の層序	5
3 遺構と遺物	9
III まとめ	11

挿図目次

第1図 井野一里塚南遺跡と周辺環境 (1/25,000)	2
第2図 遺跡の位置図 (1/5,000)	6
第3図 調査区及びグリッド配置図 (1/1,000)	7
第4図 土層観察地点と堆積状況図 (1/200・1/40)	8
第5図 1号陥穴の位置図・平面図・断面図 (1/200・1/40)	10

表目次

第1表 主な周辺遺跡	3
第2表 井野一里塚南遺跡土層観察対比表	8

図版目次

図版1 航空写真 (平成13年撮影：1/10,000, 昭和48年撮影：1/11,200)	図版2 層序及び発掘区
	図版3 発掘区及び遺構

I はじめに

1 調査の経緯

千葉県土木部は、佐倉市井野字一里塚地先において(国)296号国道道路改築事業を計画し、千葉県教育委員会に遺跡の有無を照会したところ当該地先が井野一里塚南遺跡の一部に含まれることが確認されたため、千葉県教育委員会と協議の結果、事業地区内の埋蔵文化財の取扱いについて記録保存の処置を講ずることとなり、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

調査は、平成12年12月1日から平成13年1月31日の期間に次の組織と担当者により実施された。

平成12年12月1日～平成12年12月28日

調査事務所長 石田廣美、上席研究員 落合章雄

平成13年1月4日～平成13年1月31日

調査事務所長 石田廣美、上席研究員 立石圭一

また、整理作業は以下の期間及び組織と担当者により実施された。

平成13年6月1日～平成13年6月28日

調査事務所長 石田廣美、副所長 石倉亮治

2 遺跡の位置と環境

井野一里塚南遺跡は、利根川下流の下総台地北部に所在し、印旛沼南西の標高27m前後の台地上に位置する。南方方向から印旛沼西端に隣接する低湿地に突出したこの台地は、海成の第四紀洪積土層上に堆積した火山成の関東ローム層からなり、小河川の浸食作用による幅の広く浅い樹枝状の谷によって複雑に削り取られ半島状になっている。

遺跡周辺は昭和50年代以降のユーカリが丘住宅団地造成による地形変更が著しく、現状から地理的環境を検討するのは困難である。昭和48年当時の航空写真¹⁾によれば、井野一里塚南遺跡は印旛沼と印旛沼に流入する高野川及び手繰川の各水系に挟まれた比較的偏狭な台地上に所在する。現在、井野一里塚南遺跡の南にはモノレール・ユーカリが丘線地区センター駅周辺の平坦な街区が展開するが、この地域には高野川の小支流小竹川により形成された東方の小規模な支谷からのびる谷津の存在が認められ、谷津の北側台地上に本遺跡は立地していたことになる。

井野一里塚南遺跡周辺には、井野一里塚南遺跡と同じ台地上に2井野長割遺跡・3井野遺跡・4井野宮ノ台遺跡・5井野松山遺跡・6井野前畑遺跡・7青菅東台遺跡・8青菅葉台遺跡があり、高野川の小支流によって形成された支谷を挟んで東側の台地には、11小竹後谷津遺跡・12西ノ台遺跡・17小竹登戸遺跡がある。井野・青菅地域は、縄文時代中期から晩期にかけての遺跡が顕著であり、財団法人印旛都市文化財センターにより平成9年から平成13年まで数次にわたり調査された井野長割遺跡では、4基のマウンドを伴う盛土遺構とともに縄文時代後期から晩期の集落の存在が確認されている。²⁾

手繰川東岸の印旛沼に面した台地には、24臼井台山崎遺跡・26八幡台遺跡・27八幡台B遺跡・28洲崎岩跡遺跡・29臼井台寺台遺跡・30臼井田外城北遺跡・31臼井田台畑遺跡・32臼井城跡本城遺跡・33臼井台大



第1表 主人公周辺跡

番号	通称名	所在地	時代(時期)	水名	立地・現状	文献	備考
1	野野一平塚南	飯倉市野野字一平塚1176-1地	縄文(晩)	印旛沼	台地上, 畑		
2	野野貝塚	飯倉市野野字長瀬834	縄文(後・晩)	印旛沼	台地上, 小学校・山林	抄547-550, 文1	S.41-45, 48, 119-12 調査済
3	野野	飯倉市野野字南558	縄文	百原沼	台地上, 瓦地・宅地	文2	S.50調査済
4	野野宮ノ台	飯倉市野野宮ノ台17	縄文	印旛沼	台地上, 山林		
5	野野松山	飯倉市野野字松山728地	平安	印旛沼	台地上, 畑		
6	野野前庭	飯倉市野野字前庭196地	縄文(後), 古墳(中)	印旛沼	台地上, 畑		
7	野野東台	飯倉市野野字東台215地	縄文, 弥生, 古墳	印旛沼	段丘上, 畑		
8	野野東代台	飯倉市野野字東代台334地	縄文(中・後)	印旛沼	台地上, 畑		
9	小竹竪立	飯倉市小竹字竪立2259地	縄文(中・後), 弥生(中), 古墳, 平安	印旛沼	台地上, 宅地		
10	小竹部	飯倉市小竹字部	縄文, 弥生, 平安	印旛沼	台地上, 畑		
11	小竹後存津	飯倉市小竹字後存津1028地	縄文(後), 弥生(後), 平安	印旛沼	台地上, 畑		
12	西ノ台	飯倉市小竹字西ノ台1459-7地	弥生(後), 古墳(中・後), 平安	印旛沼	台地上, 宅地	文2	S.50調査済
13	菅草木ノ宮	飯倉市菅草字木ノ宮1077地	縄文(中), 古墳(後)	高野川	台地上, 畑・瓦地		
14	古尾台	飯倉市	縄文(中・後・晩)	高野川	台地上, 畑		
15	野野台貝塚	飯倉市	縄文(早)	高野川	段丘上, 畑	抄116, 文3	
16	上原貝塚	飯倉市上原	縄文(早)	手越川	台地上, 畑		
17	小竹登戸	飯倉市小竹字登戸1173地	縄文(中), 古墳, 平安	手越川	台地上, 畑		
18	上原	飯倉市上原字西存津205-2	縄文(早・中・後)	手越川	宅地	文2	S.50調査済
19	草部	飯倉市上原字草部712	弥生(後)	手越川	台地上, 宅地	文2	S.50調査済
20	野田神楽堂	飯倉市野田字神楽堂888-4地	縄文(早・中・後), 弥生, 古墳	手越川	台地上, 畑		
21	小竹向台	飯倉市小竹字向台749-1地	古墳(前・後)	手越川	台地上, 畑		
22	上原北	飯倉市上原字北52-1-1地	弥生(後), 古墳(前・後)	手越川	台地上, 畑		
23	上原東	飯倉市上原字東1018地	縄文(中), 古墳(前)	手越川	台地上, 畑・山林		
24	白井台川端	飯倉市白井字台川端215地	古墳(後), 平安, 中近世	手越川	台地上, 畑・山林		
25	特台段野	飯倉市八幡台2丁目	中近世	手越川	台地上, 神社・宅地		
26	八幡台	飯倉市八幡台1丁目	弥生, 古墳, 奈良, 平安	手越川	台地上, 畑・畑	抄547-48	S.47・調査済
27	八幡台台	飯倉市白井字台八幡台1186地	古墳(後), 弥生(後), 古墳, 平安	手越川	台地上, 畑		
28	神岡野跡	飯倉市白井字神岡1212地	中近世	手越川	台地上, 畑		
29	白井台台	飯倉市白井字台字台406地	縄文, 弥生, 平安, 中近世	手越川	台地上, 畑		
30	白井岡外城北	飯倉市白井岡字外城北1029-1地	中近世	手越川	台地, 畑・山林		
31	白井岡内畑	飯倉市白井岡字内畑108地	弥生, 平安, 中近世	手越川	台地上, 畑		
32	白井岡本城	飯倉市白井岡字城内219-1地	縄文, 平安, 中近世	手越川	台地上, 畑・瓦地	文1	S.58調査済
33	白井岡大茶所	飯倉市白井岡字大茶所114地	古墳, 奈良, 平安, 中近世	手越川	台地上, 畑・瓦地		S.6調査済
34	白井岡南段野	飯倉市白井岡字南段野1072地	中近世	手越川	台地上, 宅地		
35	上原矢塚	飯倉市上原字矢塚68	縄文(早・中・後), 弥生(後), 古墳(前)	手越川	台地上, 宅地	文5	S.60調査済
36	下志津大西	飯倉市下志津字大西1064-1地	縄文(中), 平安	手越川	台地上, 畑		
37	下志津東丸	飯倉市下志津字東丸1489地	古墳(後), 平安	手越川	台地上, 畑		
38	神草部	飯倉市下志津字志津南122地	古墳, 縄文(中・後・晩), 古墳, 近世	手越川	台地上, 畑・山林	抄563, 文6・7	S.40・調査済
39	高野跡	飯倉市下志津字高野跡202-1地	縄文, 弥生, 古墳, 平安	手越川	台地上, 高校校庭	抄550-S.52, 文8	S.51-52調査済, 部林指定史跡
40	下志津五反目	飯倉市下志津五反目469地	縄文(中・後), 古墳, 奈良	手越川	台地上, 宅地・畑	文6	S.63調査済
41	下志津白井作	飯倉市下志津字白井作318-3地	縄文(中), 古墳	手越川	台地上, 宅地・瓦地	文8	下志津東方ノ台遺跡跡
42	上野城跡	飯倉市下志津字上野1366地	縄文(早・中), 古墳(後), 中世	手越川	古跡台地, 山林・畑		
43	下志津水天	飯倉市下志津水天117	平安	手越川	台地上, 畑		
44	野田川端東	飯倉市野田字川端114地	印旛沼, 縄文, 弥生, 古墳, 平安	手越川	台地上, 畑		
45	野田川端西	飯倉市野田字川端614地	縄文, 弥生, 古墳	手越川	台地上, 畑		
46	野田台	飯倉市野田字台1545地	縄文(中)	手越川	台地上, 畑・宅地		
47	生谷花山南	飯倉市生谷字花山	縄文(後・晩)	手越川	台地上, 畑		
48	白井南(石神2地区)	飯倉市白井南字石神	縄文, 弥生, 古墳, 平安	手越川	台地上, 宅地	文9・10	S.64調査済
49	白井南(石神1地区)	飯倉市白井南字石神	弥生, 中世	手越川	台地上, 宅地	文9・10	S.64・49調査済
50	白井南(石神3地区)	飯倉市白井南字石神	印旛沼, 縄文, 弥生, 古墳, 平安, 中近世	手越川	台地上, 宅地	抄549-50, 文9-10	S.64調査済
51	生谷C地区	飯倉市生谷字通存津124地	縄文, 弥生, 中世	手越川	台地上, 宅地	抄550-51, 文11	S.51調査済
52	生谷G地区	飯倉市生谷字G1075地	縄文(中), 弥生	手越川	台地上, 畑		

文献抄: 手塚忠雄『縄文文化発展地図巻外抄(抄)に就く』S.142図説, 日比平蔵, 筑波大学発行(平史)文1
又: 1 丹野長頼遺跡概観
2 飯倉市縄文文化財報告(2) 志津西ノ台遺跡
3 小宮定太郎『開野台貝塚』発掘報告
4 千葉県飯倉(白)中近世遺跡調査委員会報告
5 第2スーリーノ丘宅地造成地内環境文化史調査
6 うつね
7 神楽部遺跡・五反目遺跡 飯倉市白井南遺跡所在確認調査事業報告書
8 飯倉市総合調査報告
9 白井南
10 白井南-石神等・地点発掘調査報告書
11 生谷

千葉県教育庁生涯学習部文化課
飯倉市教育委員会(昭60)
飯倉市(昭51)
財)白原郡高文化財センター(平6)
飯倉市教育委員会(昭53)
財)白原郡高文化財センター(昭61)
財)白原郡高文化財センター(昭61)
飯倉市教育委員会(昭62)
飯倉市教育委員会(平3)
財)千葉県文化財センター(昭53)
飯倉市教育委員会(昭50)
白井南(石神)地区調査報告書(昭51)
白井南(石神)地区調査報告書(昭52)

名宿遺跡・34臼井城御屋敷跡遺跡などが所在している。この地域の特色は、弥生時代以降の遺跡が顕著である。特に仲台磐跡遺跡・洲崎磐跡遺跡・臼井城跡本城遺跡を初めとする15～16世紀主体の中世城郭関連遺跡が所在する。

手繰川の水系には、西岸の16上座貝塚・18上座遺跡・19萱橋遺跡・21小竹向台遺跡・22上座安土遺跡・23上座後遺跡・35上座矢橋遺跡・36下志津大西遺跡・37下志津兼丸遺跡・38神楽場遺跡・39飯郷作遺跡・40下志津五反目遺跡・41下志津臼井作遺跡・42上幹城跡遺跡・43下志津弁天遺跡・44畔田川崎東遺跡・45畔田川崎西遺跡・46畦田台口遺跡と東岸の47生谷花口南遺跡・48臼井南（石神2地区）遺跡・49臼井南（石神1地区）遺跡・50臼井南（石神3地区）遺跡・51生谷C地区遺跡・52生谷松山遺跡がある。同水系の遺跡の中では、県指定史跡である上座貝塚で縄文時代早期の住居跡から廃棄された多量の貝が検出されている。

手繰川西岸の地域では、旧石器時代から中・近世にわたる遺跡が所在し、昭和54年に県指定史跡となった飯郷作遺跡では、財団法人千葉県文化財センターによる昭和51年・52年の調査で古墳時代前期の前方後方墳をはじめ方形周溝墓や方墳の所在が判明した。³⁾

手繰川東岸の地域では、生谷松山遺跡で馬蹄形状に展開する縄文時代中期の集落があり⁴⁾、手繰川東岸の台地のさらに東には鹿島川があり、その水系には14吉見台遺跡、15間野台貝塚がある。吉見台遺跡は、縄文時代晩期の大型住居跡が検出され⁵⁾、間野台貝塚では平成6年の財団法人印旛郡市文化財センターの調査で、縄文時代の早期及び前期の住居跡をはじめ多数の土坑が検出された。⁶⁾

印旛沼に流入するもう一つの水系である高野川流域には、13青苔木ノ宮遺跡がある。青苔木ノ宮遺跡は、縄文時代中期や古墳時代後期の遺物が出土している。

注1 航空写真（京業測量株式会社昭和48年撮影「C21A-22」及び平成13年撮影「C18-25」）

2 2001.6 「みつけた佐倉市井野長割遺跡」『財団法人印旛郡市文化財センター広報誌フィールドブック Vol.9』財団法人印旛郡市文化財センター

2001.7 「佐倉市井野長割遺跡－縄文時代のスペースデザイン、「円環の秩序」－」『財団法人印旛郡市文化財センター第5回遺跡発表会発表要旨』財団法人印旛郡市文化財センター

3 1977.3 「佐倉市飯作遺跡」財団法人千葉県文化財センター

4 2000.3 「佐倉市生谷松山遺跡(02-078)」『財団法人印旛郡市文化財センター年報15-平成10年度-』財団法人印旛郡市文化財センター

5 2000.3 「千葉県佐倉市吉見台遺跡A地点－縄文時代後・晩期を主体とする集落跡と貝塚の調査－」財団法人印旛郡市文化財センター

6 1994.3 「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報-平成6年度-」千葉県教育庁生涯学習部文化課

II 調査の概要

1 発掘区の設定

佐倉市井野一里塚南遺跡の調査区は、事業地内の長さ約260m幅約20mの範囲にあたり、調査面積は4,800㎡で、一部佐倉市道を含む。(第2図網掛け部分)

調査区内における発掘区は、公共座標を基準として20m×20mの方眼グリッドを設定し、北から1, 2, 3, …, 西からA, B, C, …とし、1A, 2B, 3C, …と呼称した。また、各方眼グリッド内を北西端から南東端にかけて先頭の00グリッドを第1段第1列とし10列ごとに次段の西端に移り、10段10列の100分割小グリッドを設定し、遺構の検出や遺物の取り上げの際の基準とした。

調査は平成12年12月1日から平成13年1月31日までの期間行われ、調査対象面積4,800㎡のうち10%に相当する480㎡の上層と4%に相当する192㎡の下層それぞれについて確認調査を実施した。上層の確認調査は、幅2mのトレンチを22本延べ240m分を道路改築範囲に対応して配置した。下層の確認調査では、上層確認の際に設定したトレンチ内及びその周辺に2m×2mの確認調査発掘区48か所を設定して武蔵野ローム層上面までの遺物の有無を確認した。また、下層確認グリッドの任意の地点3か所で層序の観察を行った。

2 井野一里塚南遺跡の層序

井野一里塚南遺跡の層序は、4G・5E・7A各グリッドの上層確認トレンチ内に設定した下層確認調査発掘区において土層の堆積状況を観察した。土層の観察面は、いずれも2m×2mの発掘区北西壁面を使用した。

それぞれの地点の土層については、表土層より下層に向けて順次分層可能な層位について第1層、第2層…とし、それぞれについて「下総台地における立川ローム層の層序区分」における検討結果に基づき土層の観察を行った。(第2表)

4Gグリッドでは、第1層及び第2層は土色の違いはあるがともに耕作土層であり、第3層の耕作用トレンチ痕は第4層を貫き第5層まで達している。第4層はⅢ層に相当し、第5層はⅣ層～Ⅴ層に相当する。井野一里塚南遺跡のⅤ層は第1黒色帯に相当するが、Ⅳ層との明確な分層はできなかった。第6層はバミスの拡散が著しくⅥ層に相当すると思われるが、以下の層序は乱れが無く安定している。第7層は第2黒色帯上部のⅦ層に相当し、Ⅷ層直下は第2黒色帯下部のⅨ層となるが、Ⅷ層については確認できなかった。第8層はⅩa層、第9層はⅩb層、第10層はⅩc層にそれぞれ相当する。井野一里塚南遺跡ではⅩ層中にやや明るい褐色の間層であるⅩb層が確認されている。

また、Ⅹ層は立川ローム最下層となり第11層はⅩa層、第12層はⅩb層、第13層はⅩc層にそれぞれ相当する。

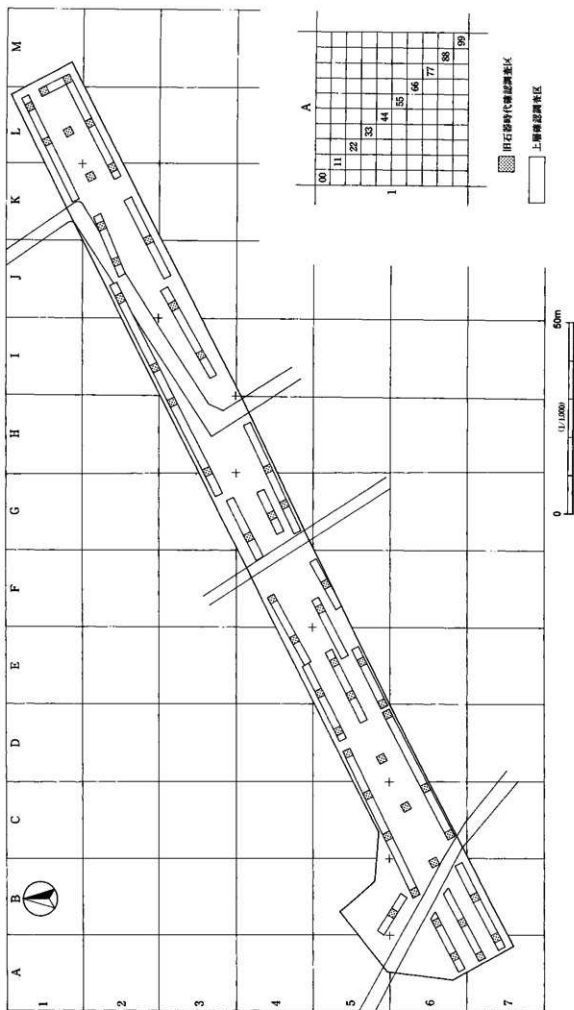
第13層までは立川ローム層であり、第13層直下より武蔵野ローム層となる。

5Eグリッドでは、第1層及び第2層耕作土層中に第3層耕作用トレンチによる攪乱が見られる。第4層はⅢ層に相当するソフトロームであるが小ブロック状に残存するのみとなっている。第5層はⅣ層～

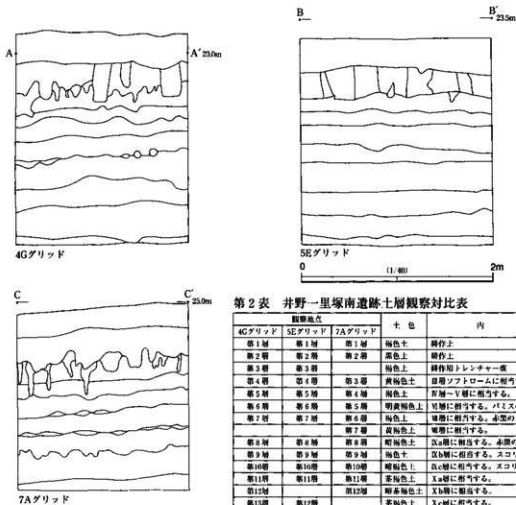
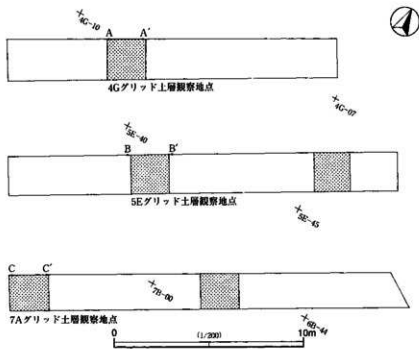


第2図 遺跡の位置図

0 1:5,000 200m



第3図 調査区及びグリッド配置図



第2表 井野一里塚南遺跡土層観察対比表

観察地点			土色	内 容
4Gグリッド	SEグリッド	7Aグリッド		
第1層	第1層	第1層	褐色土	耕作土
第2層	第2層	第2層	灰色土	耕作土
第3層	第3層	第3層	褐色土	耕作層トレンチャー痕
第4層	第4層	第3層	黄褐色土	最層ソフトロームに相当する。
第5層	第5層	第4層	褐色土	第4～5層に相当する。
第6層	第6層	第5層	明黄褐色土	1層に相当する。パイプの記載がましい。
第7層	第7層	第6層	褐色土	2層に相当する。4区のスコープを含む。
第8層	第7層	第7層	灰褐色土	3層に相当する。
第9層	第8層	第8層	暗褐色土	2a層に相当する。赤褐色のスコープを含む。
第9層	第9層	第9層	褐色土	2b層に相当する。スコープを含む。
第10層	第10層	第10層	暗褐色土	2c層に相当する。スコープを含む。
第11層	第11層	第11層	茶褐色土	2a層に相当する。
第12層	第12層	第12層	暗茶褐色土	2b層に相当する。
第13層	第13層	第13層	茶褐色土	2c層に相当する。

第4図 土層観察地点と堆積状況図

V層に相当し、第6層はバミスの拡散が顕著なVI層に相当する。第7層は第2黒色帯上部のVII層に相当し、4Gグリッドと同様にVII層下にはVIII層に相当する堆積層は確認できなかった。VII層に続き第2黒色帯下部のIX層の堆積が見られ、第8層はIXa層、第9層はIXc層にそれぞれ相当し、4Gグリッドで見られたIX層中の間層であるIXb層は確認できなかった。また、5Eグリッドの最下層はX層であり、第10層はXa層、第11層はXb層、第12層はXc層にそれぞれ相当する。

7Aグリッドでは、第1層及び第2層は耕作土であり、第3層は第4層に達するクラック中にわずかに残存している。第3層はIII層、第4層はIV層～V層にそれぞれ相当する。第5層はバミスの拡散が著しくVI層に相当し、以下の層序は安定している。

また、第6層は第2黒色帯上部のVII層に相当し、第6層と第8層との境にはわずかにレンズ状に挟まれた第7層が見られる。第7層は4Gグリッド及び5Eグリッドでは確認することのできなかったVIII層に相当する。第8層から第10層はIX層に相当し、第8層はIXa層、第9層はIXb層、第10層はIXc層にそれぞれ相当する。7Aグリッドでは、第9層のIXb層は小ブロック状にわずかに確認できる程度である。

また、第11層及び第12層はX層に相当し、第11層はXa層、第12層はXb層にそれぞれ相当し、第12層直下は武蔵野ローム層上面となり、立川ローム最下層のXc層は確認できなかった。

3 遺構と遺物

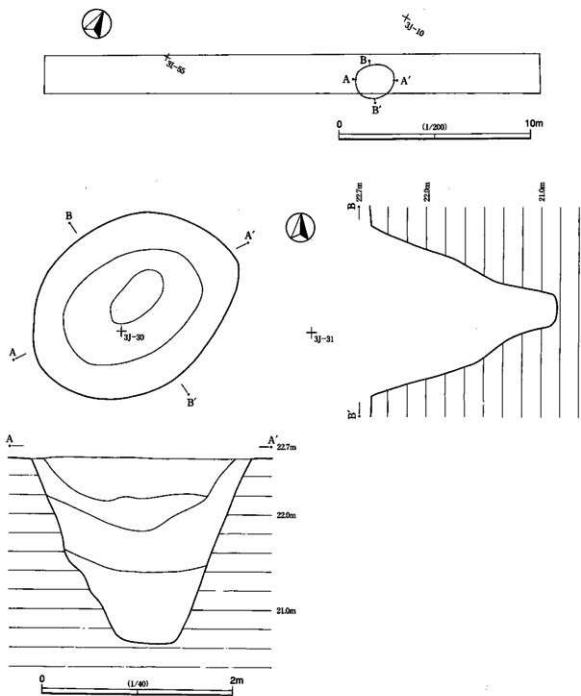
遺構は、調査区の東端から約36m中央寄りの3J-20グリッド付近に陥穴1基が検出された。

1号陥穴

規模は、開口部の長軸径2.3m×短軸径1.8m、深さ2mの平面楕円形である。伴出する遺物は検出されていないため、時期の特定はできない。陥穴開口部の長軸の方位はN-35°-Wで、南に面する谷津と並行する位置関係にある。覆土の状況は、緩やかな皿状の自然堆積である。特定の用途を想定できるような残留物も検出されておらず、徐々に埋没したものと考えられる。

底部は比較的平坦で、長軸径0.7m×短軸径0.3mの楕円形を呈し、底部の長軸方位は開口部の長軸方位と一致している。また、陥穴の断面観察では底部付近でややすぼまる様子が見られる。

今回の調査では、調査区全域からの出土遺物は総数10点で、すべて縄文土器の小破片であり、実測及び採拓可能な大きさのものは無い。



第5図 1号陥穴の位置図・平面図・断面図

Ⅲ まとめ

井野一里塚南遺跡周辺の縄文時代の遺跡は、中期以降集落規模の大きなものや特異な性格を有する遺構や遺物を伴うものの存在がこれまでの調査で明らかとなりつつある。

井野一里塚南遺跡に隣接する井野一里塚遺跡は縄文時代晩期の包蔵地であり、井野一里塚南遺跡の北西約0.3kmにある井野長割遺跡では縄文時代後期から晩期にかけての集落が確認され、住居跡や盛り土遺構内から異形台付土器や香炉形土器が検出されている。¹⁾

井野一里塚南遺跡の南東約4kmにある吉見台遺跡では、縄文時代中期から晩期にかけての集落が検出され、晩期には大型住居跡（長軸19m・短軸16.5m）が存在したことも明らかとなっている。また、異形土製品や多数の山形土偶、土製耳飾りなどを出土していることも特徴である。²⁾

また、井野一里塚南遺跡の南東約2.6kmに位置する生谷松山遺跡では径約150mにも及ぶ環状ないし馬蹄形の縄文時代中期の住居跡群に囲まれて多数の土坑や小竪穴が群集している状況が確認されている。³⁾

井野一里塚南遺跡の今回調査の対象となった調査区は、調査面積に比して出土遺物量が極めて少なく、遺構や遺跡の年代を特定する根拠を示すことは困難である。調査区内の3地点で行った土層の観察から、Ⅳ層～Ⅴ層以下の層序が安定しているのとは対照的に耕作土層直下のⅢ層の遺存状態が不安定な状況となっており、耕作土の入れ替え等によりⅢ層の主な部分及び縄文時代以降の包含層が一掃されている可能性が考えられる。

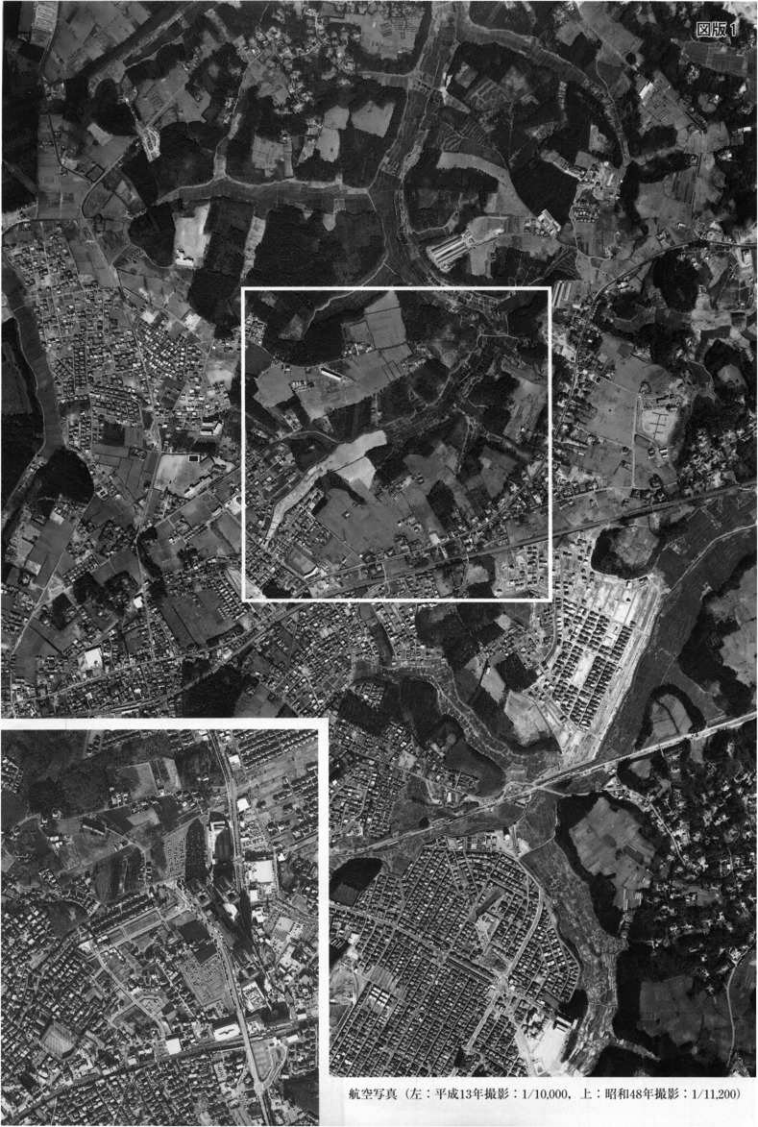
注1 1999.3『ふるさと歴史読本 原始・古代の佐倉』佐倉市

2 1983.3『佐倉市吉見台遺跡発掘調査 概要Ⅱ』佐倉市教育委員会

1999.3『千葉県佐倉市吉見台遺跡A地点』財団法人印旛都市文化財センター

3 2000.3『佐倉市生谷松山遺跡 (02-078)』財団法人印旛都市文化財センター年報15-平成10年度-財団法人印旛都市文化財センター

写 真 图 版



航空写真（左：平成13年撮影：1/10,000，上：昭和48年撮影：1/11,200）



層序 (4Gグリッド)



1Lトレンチ(W→E)

4E~4Fトレンチ
(W→E)



層序 (7Aグリッド)



5F04~5E47トレンチ(E→W)





6Aトレンチ(W→E)



7Bトレンチ(W→E)

6B16~5B80トレンチ(E→W)



6E00~5F60トレンチ(W→E)



6C00~5D44トレンチ(W→E)



1号陥穴



報告書抄録

ふりがな	296ごうこくどうどうろかいちくじぎょうまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	(国)296号国道道路改築事業埋蔵文化財調査報告書							
副書名	佐倉市井野一里塚南遺跡							
巻次								
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第424集							
編著者名	石倉亮治							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地2							
発行年月日	2002年3月25日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
井野一里塚南遺跡	千葉県佐倉市井野字一里塚1178番4	212	043	35°43'24"	140°9'23"	20001201~20010131	4,800㎡	(国)296号国道道路改築事業に伴う事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
井野一里塚南遺跡	包蔵地	縄文時代	陥穴	縄文土器				

千葉県文化財センター調査報告第424集

(国)296号国道道路改築事業埋蔵文化財調査報告書

—佐倉市井野一里塚南遺跡—

平成14年3月25日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 千 業 県 土 木 部
千葉県中央区市場町1-1

財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2

印 刷 株式会社 正 文 社
千葉県中央区都町1-10-6
